厚生労働科学研究費補助金（障害者政策総合研究事業）
分担研究報告書

精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築における情報通信機器を用いた精神療法の活用に向けた研究
分担研究課題「離島・僻地医療、災害支援の観点を含めた地域ニーズ・支援実態の把握」

研究分担者　富田　博秋　東北大学大学院医学研究科

研究要旨　本研究ではオンライン診療が地域における医療提供のあり方の一つとして適切に普及していくため、臨床家・自治体等が参考にできるような好事例・導入事例を収集し、適切なオンライン診療を実践できるような手引書を策定した。特に、離島・僻地や被災地域における活用を含めて多角的な検討を行い、地域包括ケアシステムの中でのオンライン診療の役割を明確化した。

A．研究目的

本邦では、離島・僻地など医療資源が確保できない地域、あるいは基本的な医療資源があっても精神科専門医が不足している地域が随所に存在する。独居高齢者の増加も大きな問題である。令和6年1月には能登半島地震が発生し、復興支援におけるニーズも改めて浮き彫りになった。

今後求められるのは、オンライン診療が地域における医療提供のあり方の一つとして適切に普及し、地域の医療体制への貢献を果たしていくことである。R6年度の診療報酬改定を経て活用の拡大が予想されるが、多くの精神科医師はオンライン診療の経験がなく、ノウハウが共有されていない。患者によっては自治体の支援が必要になるケースもあるが、自治体間の事例共有も不十分である。また、医療機関が近隣にない等の理由でオンライン診療の活用が有用であると思われる患者でも、ITリテラシーが低い等の理由から必ずしも使いこなせないケースは多く想定される。そのような場合には適宜、自治体との連携が必要となるが、その方法も具体的に示されることで、こうしたニーズに適切に応えることが可能である。

B．研究方法

1．オンライン診療のための医師向け手引書の策定

本課題では、オンライン診療を初めて実践する医師を想定した手引書を策定する。遵守事項の説明のみならず、オンライン診療の導入方法や、患者への説明、診療で注意すべきこと、質を保つための工夫等にも触れた。さらに、診療報酬上の要件のみならず、プライバシーを確保した通信環境の構築や、緊急時の対応フローなど、実務的なガイドラインも含めた。

2．地域医療の中でオンライン診療を有効に活用した好事例の収集

初年度に収集した27例の精神科オンライン診療の初診または初診類似例について、ケースシリーズ研究を実施した。また実施にあたり、倫理審査も行なった。その中で、僻地・被災地域における活用事例として保健師等が同席する形での自治体連携モデルについて実装の上、メリット・デメリットの整理、運用上の課題の抽出を行った。

C．研究結果

1．オンライン診療のための医師向け手引書の策定

「精神科領域におけるオンライン診療実践の手引書」を作成し、その内容や公表方法について、日本精神神経学会などの関係先に照会を行った。

2．地域医療の中でオンライン診療を有効に活用した好事例の収集

地理的要因、あるいは、心理的な障壁から精神科医療機関への自力受診が困難な患者に対し、オンラインを通じて専門的な介入により、地理的、心理的障壁を下げることが可能となり、保健活動から医療への円滑な橋渡しを実現する有益な手段であることが示された。

D．考察

本研究で得られた好事例・導入支援事例は、多くの臨床家・自治体の参考になるものであると考えられた。本知見は、オンライン診療が単なる対面診療の代替ではなく、アウトリーチの困難さを補完し、早期介入を実現するツールであることを示した。これは、地域包括ケアシステムおよび被災地域支援の質を向上させる上で重要な視点と考えられた。

E．結論

収集した好事例をケースシリーズ研究として論文化するとともに、臨床家が参考にできるオンライン診療実践の手引書を作成することができた。今後、これらの成果を発信し、適切なオンライン診療の普及に寄与するよう努める

F．健康危険情報：該当なし

G．研究発表

1.　論文発表：該当なし
2.　学会発表：該当なし

H．知的財産権の出願・登録状況（予定を含む。）

1. 特許取得：該当なし
2. 実用新案登録：該当なし
3. その他：該当なし